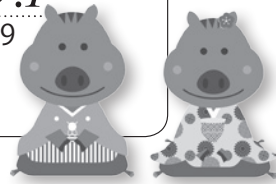


# システナ健保だより

2019.1  
No.99



## 新年のご挨拶

システナ健康保険組合  
理事長 国分 靖哲

新年あけましておめでとうございます。  
被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、幸多き新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、当健康保険組合の事業運営につきましては、日頃より格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は地震、台風、豪雨などの自然災害が相次ぎ、当健康保険組合の被保険者ならびにご家族のみなさまにも不便な生活を余儀なくされた方がいらつしやることをお聞きしております。心よりお見舞い申し上げますとともにみなさまの安全とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

さて、みなさまご承知のとおり、全国の健康保険組合の財政は、高齢者医療制度への過重な納付金負担のために厳しい状況が続いています。

健康保険組合連合会が発表した平成29年度健保組合決算見込によると、納付金総額は組合全体で3兆5265億円、前年度に比べて7・5%の増加となりました。高齢者医療費の伸びに伴い、現役世代が負担す

る年間保険料も上昇の一途をたどり、この10年間で被保険者1人当たり約10・6万円の負担増となっております。

このようななか、昨年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018（骨太方針）」では、社会保障費の伸びと国民負担の増加の抑制を基本に据えた方向性が示されました。しかし、肝心の高齢者医療費の負担構造改革については、後期高齢者の窓口負担の見直しが先送りされかねない内容になるなど、具体性・即効性に乏しいと言わざるをえません。今回の骨太方針は、2019年度から2021年度までを「基盤強化期間」とし、2020年度に社会保障の重点施策が取りまとめられる予定です。今後、どのような検討や取り組みが進められるのか、私たちもしっかりと注視していく必要があります。

こうした厳しい財政状況のなかにあつて、健康保険組合の重要な使命は、保険者の機能を最大限に発揮し、みなさまとご家族の健康づくりを着実に推進していくことにあります。引き続き、事業主との連携を深

めてデータヘルス計画に取り組み、特定健診・特定保健指導等の疾病予防を中心とした保健事業を積極的に展開し、みなさまの健康保持・増進と健康寿命の延伸を図ってまいります。みなさまにおかれましても、日々の健康づくりとともに、医療機関にかかる際の適正受診、ジェネリック医薬品の積極的な使用などを通じて、医療費の節約にご協力いただきたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

